

## 日本発ウィーン便り～ウィーンの水と秋の味

ウィーンのカフェでコーヒーを頼むと、こんな感じで、銀の小さなトレーにコーヒーと裏返したスプーンを載せたお水が必ず登場します。



散々これまでも書いたのご存知の方も多いと思いますが、このお水、水道水なんです。質が高く美味しい水道水はウィーンの人々の誇り。実際、私もいつも飲みますが、「水道水の割には美味しい」というものではなく、「水が美味しい！」んです。

ウィーンの水はアルプスのふもとからやってきます。

なんと、この水道、1873年に時の皇帝フランツ・ヨーゼフ一世が作ったそうです。さらに人口増加を受けて1910年に2本目の上水道が完成。現在に到るまで、この2本の上水道が活躍しているのだそうですよ。(壮大ですねえ。)1873年完成の初代上水道もまだウィーンの水需要の40%を供給しているのだとか。

そんなわけで、「海外では水道水は飲まない」がお約束ですが、ウィーンに限ってはミネラルウォーターなんぞ買う必要はないのです。もちろん、地元の人でもわざわざミネラルウォーターを買って飲む人は少ないようで、スーパーに行っても日本のように数十種類のミネラルウォーターが並ぶ、という光景は見られないです。(もちろん、炭酸入りにはいろんな種類がありますよ。)

代わりに最近人気なのが、ミネラルウォーターに果実の香りをつけたもの。



こういうやつです。これはブルーベリー＋ラズベリー味。ミネラルウォーターは炭酸入りです。結構おいしくて、気に入っています。

シュテファン大聖堂近くの歩行者専用の大通りに以前は見かけなかったものを発見！



いきなり水飲み場です。ウィーンはなかなか言葉遊びというか語呂合わせというかが、お上手なんです。これもそう。下書いてある Trinkwasser:トリンクヴァッサー(飲料水の意味)上書いてあるのは Trink Wasser!(トリンク ヴァッサー:水を飲もう!)という意味です。☺もちろん、この水は自慢の水道水ですよ。

ただ、カフェとかで Wasser(ヴァッサー:水)を頼むと有料のミネラルウォーターを意味しますので、ご注意ください。水道水がほしいときはちょっと長いですが、 Leitungswasser, bitte!(ライトウングスヴァッサー、ビッテ! :水道水ください!)と言えば OK です。

ところで、今年は10月10日が新酒の解禁日だったようです。9月中旬を過ぎてから解禁日までの2-3週間のみ、楽しめる秋の味があります。ちなみに、ウィーンの人はその年の新酒の事(もちろんワインですよ)をホイリゲと呼びます。その一つ手前、まだ発酵途中のものをウィーンでは「Sturm (シュトゥルム)」と呼びます。

丁度私が行った時期が Sturm の時期でした。



こんな感じで Sturm の屋台が出ていました。

ここで、ではないですが、今回飲んでみました！まだワインという感じではなく、限りなくぶどうのフレッシュジュースに近い感じ。でも発酵途中なので、かすかにスパークリングワインのようなシュワシュワ感。甘くてジュースのノリでぐいぐいいけそうですが、しっかりアルコールはすでに含まれているので要注意！と言う感じのものでした。これがあと数週間でどうやってワインに変身するのか？不思議な気もしますが、本当にこの時期限定の秋の味でしたよ。今年のホイリゲもいい出来なのかな？ちなみに Sturm は嵐という意味の単語です。口当たりがいいので、調子にのって Sturm を飲みすぎると、次の日は二日酔いで頭が Sturm という説がありますが、本当かどうかはわかりません。オーストリアでは発酵途中のワインを Sturm と呼びますが、同じものをドイツでは Federweißer(フェーダーヴァイサー)と呼びます。

この時期に当たれば Sturm を！そうでなくてもウィーンでは是非、隠れた名物「水道水」を試してみてくださいね！